

(別添1)

## 学校における全国学力・学習状況調査を活用した取組の状況について

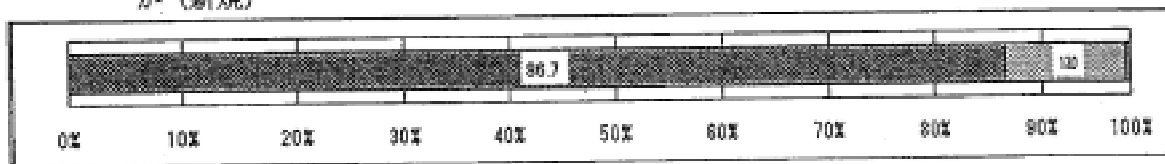
※出典：文部科学省「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果概要」

### 【小学校調査】

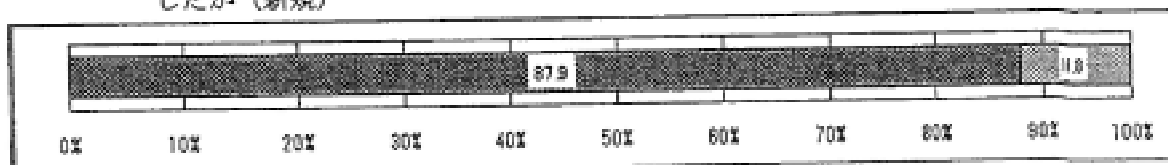
- 平成19年度全国学力・学習状況調査を、指導計画等に反映させた学校の割合は約87%、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合は約88%、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用した学校の割合は約77%、調査問題を授業の中で活用した学校の割合は約49%、学校の指導計画等の検討にあたり、調査結果や報告書の内容を参考にした学校の割合は約82%である。
- 平成19年度全国学力・学習状況調査を活用している学校は約9%である。



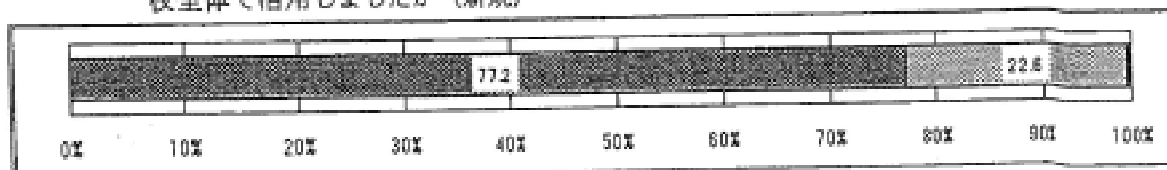
\*質問39：平成19年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させましたか（新規）



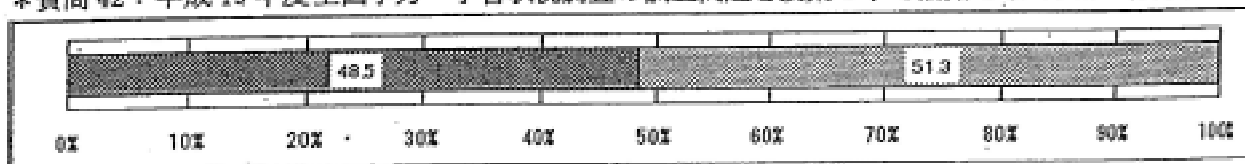
\*質問40：平成19年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用しましたか（新規）



\*質問41：平成19年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用しましたか（新規）



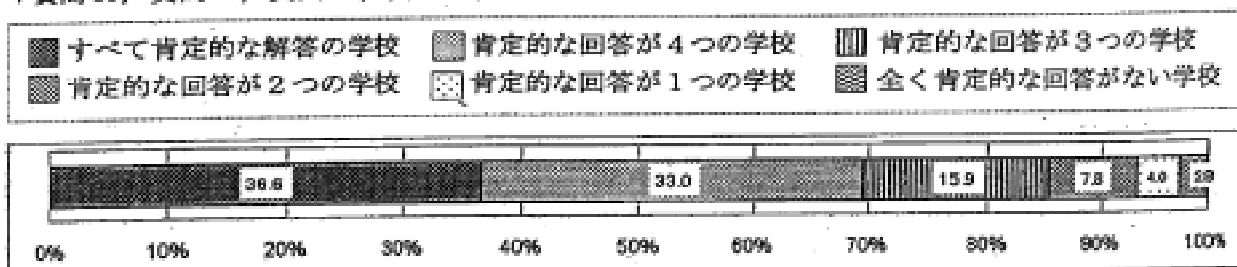
\*質問 42：平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか（新規）



\*質問 43：学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか（新規）



\*質問 39、質問 40、質問 41、質問 42、質問 43 への回答状況

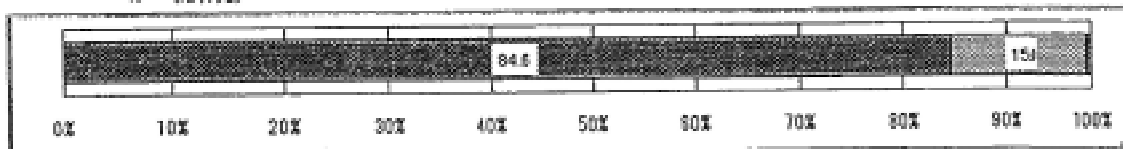


【中学校調査】

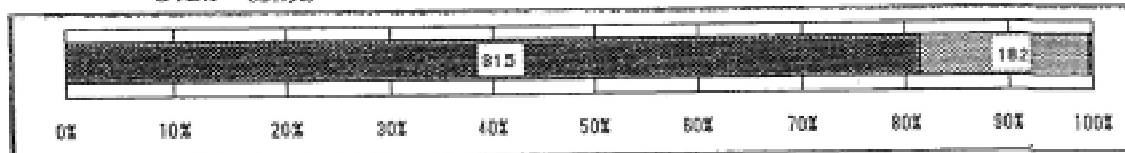
- 平成 19 年度全国学力・学習状況調査を、指導計画等に反映させた学校の割合は約 85%、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合は約 82%、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用した学校の割合は約 70%、調査問題を授業の中で活用した学校の割合は約 39%、指導計画等の検討にあたり、調査結果や報告書の内容を参考にした学校の割合は約 78%である。
- 平成 19 年度全国学力・学習状況調査を活用している学校は約 9%である。



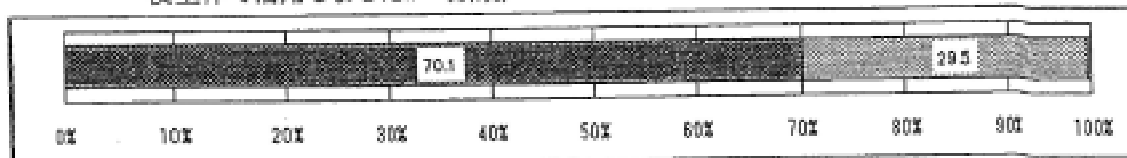
\*質問 39：平成 19 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させましたか（新規）



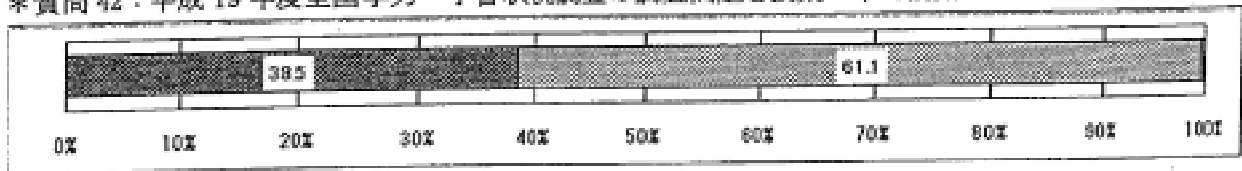
\*質問 40：平成 19 年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善活用しましたか（新規）



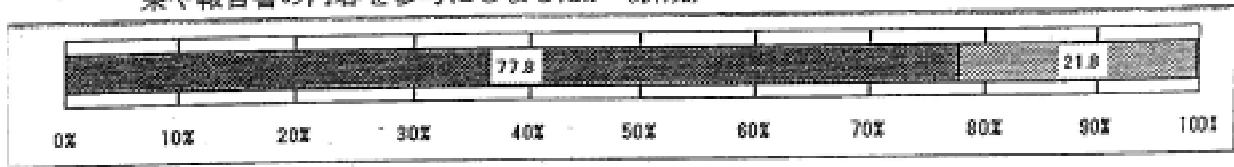
\*質問 41：平成 19 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用しましたか（新規）



\*質問 42：平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用しましたか（新規）

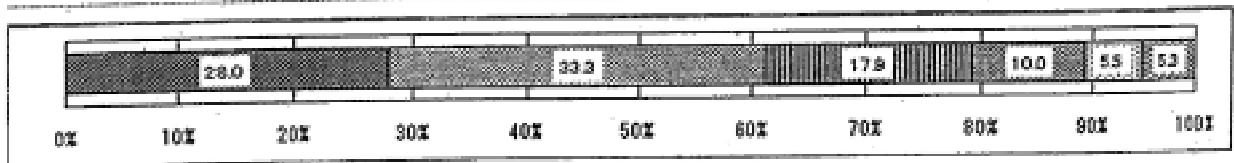


\*質問 43：学校の指導計画や取組を検討するにあたり、平成 19 年度全国学力・学習状況調査の調査結果や報告書の内容を参考にしましたか（新規）



\*質問 39、質問 40、質問 41、質問 42、質問 43 への回答状況

- |                |                |                 |
|----------------|----------------|-----------------|
| ■ 全て肯定的な回答の学校  | ■ 肯定的な回答が4つの学校 | ■ 肯定的な回答が3つの学校  |
| ■ 肯定的な回答が2つの学校 | ■ 肯定的な回答が1つの学校 | ■ 全く肯定的な回答がない学校 |



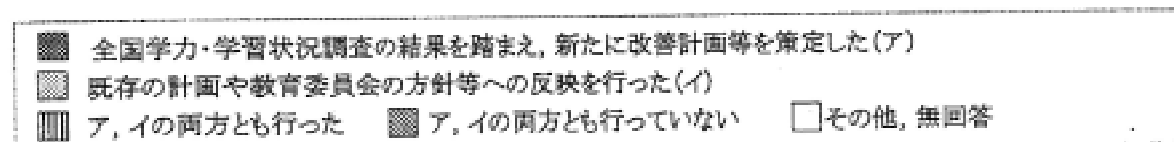
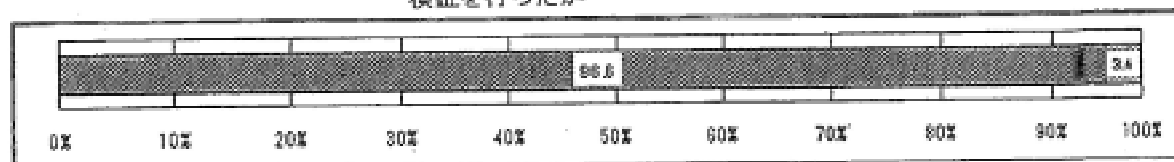
(別添2)

## 「市区町村教育委員会における全国学力・学習状況調査を活用した取組の状況に関する調査」について

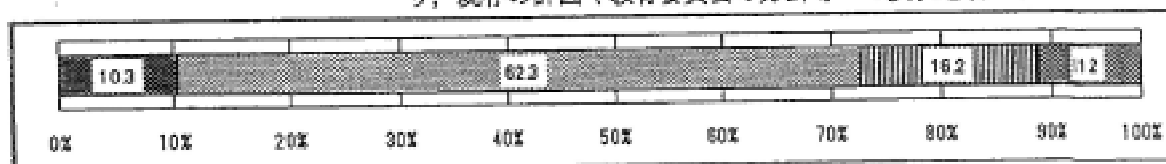
※平成20年6月1日現在で設置されている「平成19年度に全国学力・学習状況調査に参加した指定都市教育委員会を除く市区町村教育委員会」を対象として、平成20年6月1日までの平成19年度全国学力・学習状況調査を活用した取組の状況について調査し取りまとめた。



\*市区町村活用状況調査質問1：域内の状況を把握するため、全国学力・学習状況調査について分析・検証を行ったか

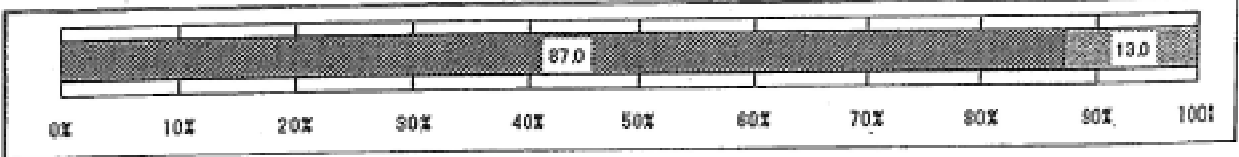


\*市区町村活用状況調査質問2：全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、新たに改善計画を策定したり、既存の計画や教育委員会の方針等への反映を行ったか

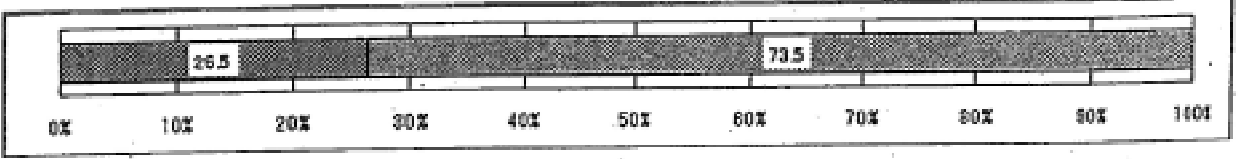


行った                       行っていない                       その他、無回答

\*市区町村活用状況調査質問3：全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学校における具体的な改善や取組に対し、学校の状況等に応じて、必要な指導・助言や支援等を行ったか

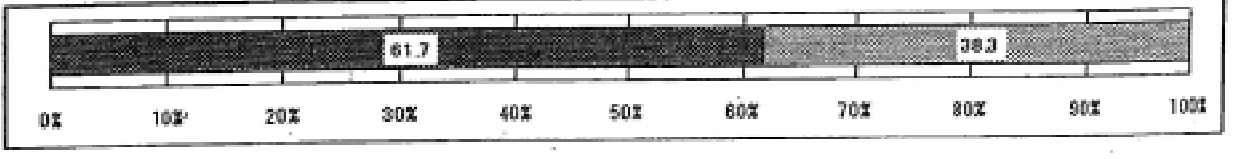


\*市区町村活用状況調査質問4：全国学力・学習状況調査の結果を受けて、指導内容や指導方法等の改善を推進するため、指導資料や教材の作成等を行ったか



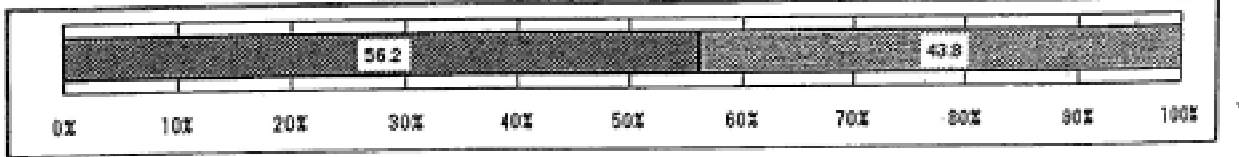
反映した                       反映していない                       その他、無回答

\*市区町村活用状況調査質問5：全国学力・学習状況調査の結果を受けて、教職員研修や教職員配置（非常勤講師を含む）への配慮などの教育施策の改善に適切に反映したか



行った                       行っていない                       その他、無回答

\*市区町村活用状況調査質問6：全国学力・学習状況調査の結果を受けて、家庭や地域に向けて、調査結果や調査結果を踏まえた取組等の周知・啓発を行ったか



文部科学省における全国学力・学習状況調査の結果を活用した平成20年度の取組

1. 調査結果等を活用した学校改善に向けた取組の促進

全国学力・学習状況調査の結果等から、児童生徒の学力や学習状況等に課題が見られる学校の改善に向けた具体的な取組に関する実践研究を実施し、意欲的な学校の取組事例などの成果の普及を図る。また、実施に当たって、学力向上支援事業の研究指定校等の活用ができるようにしている。

2. 調査結果の分析・検証や教育指導等の改善の取組に資する資料の作成・配付

(1) 調査問題のねらいや学習指導に当たっての参考事項などを示した「平成20年度全国学力・学習状況調査解説資料」(平成20年4月 国立教育政策研究所教育課程研究センター)を作成し各学校等に配布した。

(2) 設問ごとに全国的な分析結果や指導改善のポイント等を示した「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果概要」(平成20年8月 文部科学省・国立教育政策研究所)を作成し公表した(文部科学省及び国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載)。また、平成20年度全国学力・学習状況調査に関する報告書を取りまとめ、平成20年中に各学校等に配布する。

(3) 調査結果について様々な視点から更に専門的な分析を行い、教育や教育施設の改善に向けた取組に役立てるため、「全国学力・学習状況調査の分析・活用に関する専門家検討会議」等において追加的な分析・検証を行い、その成果等を基に逐次結果を取りまとめ、各教育委員会等に配布する。

(4) 都道府県・指定都市の検証改善委員会における多面的な分析・検証の工夫や学校改善支援プランとその取組などの取組の概略等を掲載した「検証改善サイクル事業成果報告書」(平成20年6月 文部科学省)を公表し各教育委員会等に配布した。また、各学校の学力や学習状況等の全体的な特徴を視覚的に示す資料などを、教育委員会を通じて各学校等に配布する。

3. 学力調査官等による助言

都道府県教育委員会等の要請に応じて助言を行うため、国立教育政策研究所教育課程研究センターの学力調査官等を派遣する。

## 【すべては子どもたちのために～道教委からの5つの提言～】

身近なところから始めませんか。平成19年11月

### 提言の趣旨

平成19年4月に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果が公表されました。

道教委は、国から提供されたデータに基づき子どもたちの学習の状況などについて詳細な分析を行い、教育施策の改善に役立てるとともに、市町村教育委員会や学校の指導の工夫改善に役立つ「学校改善支援プラン」を公表していくこととしています。

国が公表した調査結果を見ると、本道の子どもたちは、「国語や算数・数学、総合的な学習の時間の勉強は将来、社会に出たときに役に立つ」と考えています。また、「これらの学習が好きだ」と思っている子どもたちも国と比べても決して少なくありません。

子どもたちのこうした思いを大切に、更に学力を向上させるための手立てを講ずることは大人の責任と考えます。

授業で分からなかったことをそのままにせず、知りたいことへの追究の手を休めず、学ぶための時間を厭わない子どもを育てるため、身近なところからでもはじめられることがあると思います。

家庭や地域、学校が愛情と深い信頼関係で結ばれ、子どもたちがよりよい学習や生活を実現することができるよう、今からでもはじめられることがあるのではないのでしょうか。

今、学校で学んでいる子どもたちが、これまで以上に自信をもって楽しく学習に取り組むことを願い、5つの提言をします。すべては子どもたちのために。

### 5つの提言

- ◆ **これまでに学習した内容がしっかり身に付いているか確かめをしませんか。**
  - ・ 学校は指導計画に基づき、工夫しながら授業を展開していますが、せっかく理解した内容が時間の経過に伴い曖昧になってしまえば次の学習に活かすことは難しくなります。学習後、時間をおいて再確認の場を設けたり、知識・技能などの繰り返し学習を取り入れたりするなどの取組を通じて、学習した内容が確実に身に付いたか確かめませんか。
- ◆ **子どもたちに授業以外にも学習する場や機会を増やす工夫をしませんか。**
  - ・ 放課後や長期休業期間に、子どものニーズに応じて学習できる場を工夫したり、毎日、短い時間で復習する時間を設けたり、家庭で学習するための課題を計画的に提供したりするなど、子どもの発達段階や実態に応じた取組を工夫しませんか。こうした取組は、保護者や地域の方々との連携を図って進めることによって効果的に働くと考えます。
- ◆ **朝の読書や家族みんなで読書する習慣を付けませんか。**
  - ・ 朝の読書に取り組んでいる学校も少なくありません。先生が子どもたちと一緒に読書をする楽しみを味わう姿が子どもたちに好ましい影響を与えるものです。また、家庭において、「家族が共に読書を楽しむひと時」を設けることは、読むことに対する興味・関心を高めると考えます。学校、家庭がそれぞれの役割を考えながら取り組んでみませんか。
- ◆ **子どもがどのような生活時間の使い方をしているのか、聞いたり、話し合ったりする機会を増やしませんか。**
  - ・ 家庭において、学校での出来事や授業の様子などについて、子どもと語り合う時間を大切にすることを通して、家庭での勉強時間、読書時間、テレビを見たりゲームをしたりする時間など、日常の生活時間にリズムがあり、楽しく生活する工夫を子どもと共に考えてみる機会を増やしませんか。
- ◆ **楽しく食事をとる習慣を付けませんか。**
  - ・ 家族や仲間と一緒に楽しく食事をとることは、子どもに望ましい食習慣を形成したり、豊かな心をはぐくんだりする上で大切ですが、なかなか難しい状況もあると思います。でも、できそうな時には必ず実行してみませんか。

北海道教育委員会



# 第1回 北海道確かな学び推進会議 協議のまとめ

平成20年9月29日(月) 第1回北海道確かな学び推進会議を道庁別館で開催しました。参加者からは、それぞれの機関等において学力向上にかかわる取組等を進める必要があるといった意見が数多く出されました。その内容について関連を考え、次のように取りまとめました。

今回の会議では、それぞれの機関等が実際に進める取組について話し合い、北海道の子どもの確かな学びを実現するようにします。

- ・調査結果から明らかになった課題に基づいて、具体的な改善を図る。
- ・取組の成果を子どもの姿として具体的に保護者に情報提供を行う。
- ・短期、中・長期の目標を定め、具体方策を位置付け、確かな成果をあげることのできる検証改善サイクルを確立する。
- ・基礎・基本の定着を図るための学習機会を拡充する。
- ・子どもの学びへの意欲を高める授業づくりを工夫する。
- ・授業との関連を図った家庭学習の方法を工夫し、学習習慣の定着を図る。
- ・子どもの学力向上についての保護者の啓発を図ることのできる授業公開・懇談会等を実施する。
- ・楽しい質の高い授業づくりに努める。
- ・北海道の子どものよさに着目する。

- ・学校と家庭が一層コミュニケーションを深める。
- ・授業参観の方法等の改善を図り、子どもの学びの状況について懇談で話し合う。
- ・家庭における生活習慣の確立を図るPTA研修を充実させる。
- ・子どもの学習時間の把握に努める。



- ・調査結果から、取り組むべき内容を焦点化する。
- ・教師や保護者の多様なニーズに応える研修を実施する。
- ・基本的な生活習慣の定着を目指す取組を実施する。



学校

家庭

研究団体

北海道の子どもの確かな学びを実現します

道教委

市町村教育委員会

大学

- ・調査結果について二極化の傾向など詳細な分析を行い、改善の具体的な方策について焦点化する。
- ・郡部における教育の充実を図る。  
バランスのよい教員配置。  
北海道の課題に応じた、国語及び算数・数学の問題を作成して、HPで公開し、どの学校でも気軽に活用し、学習指導をチェックする体制づくりの実現。
- ・北海道立教育研究所における教員研修の充実を図る。

- ・地域全体で子どもの生活習慣の改善を図る取組を進める。
- ・学びへの意欲を高め、学習習慣を定着させる取組を進める。
- ・学校・家庭・地域の連携による学びの確保、子どもの学習機会を確保する取組を進める。
- ・地域住民への学力向上の意義について、必要性を啓発する。
- ・各学校における調査結果の分析の支援を行うとともに、課題の解決を図る学校の主体性を高める体制を整える。

- ・学校は、学習意欲の向上、わかる授業を展開することが大切である。
- ・学校、家庭は、小・中学校の系統性を踏まえた学習習慣の形成を図ることが大切である。
- ・発達の段階に応じた学びへのアプローチが大切である。

